

東日本大震災と原発事故からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。



2011年5月に「がんばろう福島」のタイトルでスタートした「Fukushima NOW」は、今年度発行する3回をシリーズ化し福島県の復興と再生のあゆみについて特集します。2回目の今回は東日本大震災・原子力災害伝承館についてです。



福島の経験を未来につなぐ

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の発生から10年目の今年、9月20日、双葉町に東日本大震災・原子力災害伝承館が開館しました。

伝承館は、

- ①原子力災害と復興の記録や教訓の「未来への継承・世界との共有」
- ②福島にしかない原子力災害の経験や教訓を生かす「防災・減災」
- ③福島に心を寄せる人々や団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による「復興の加速化への寄与」

の3つの基本理念を掲げています。

開館から46営業日で来館者数が2万人を突破した伝承館は、展示資料、語り部※講話などの情報発信拠点施設としての機能を最大限に生かし、経験を次世代へ伝えることを期待されています。

※ここでは、東日本大震災と原子力災害を体験し、その体験の事実や想い、福島未来を語り継ぐ人のことを指します。



写真上：伝承館の外観、写真左下：展示室の内観（双葉町原子力広報塔など）、写真右下：展示資料（海外からの励ましのメッセージ）



東日本大震災・原子力災害伝承館
かい ゆうか
事業課 加井 佑佳さん

中学生のときに大熊町で被災し、今年度より東日本大震災・原子力災害伝承館の職員になりました。伝承館のイベントやオリジナルグッズを担当しています。

Q 伝承館が果たす役割について教えてください。

これまでの震災のあゆみを保存すること、その後の状況やあゆみを発信することの2つだと思います。伝承館は展示以外にも研修や調査・研究などの事業があり、さまざまな分野からこの2つについてアプローチをすることができます。

Q 研修プログラムについて教えてください。

研修をとおして福島県の復興の現状、課題等を自分のこととして捉えてもらうことを目的としています。ガイダンス、展示見学、語り部講話、大平山霊園やJR双葉駅などをバスで周遊するフィールドワーク、振り返りワークショップの5つの内容となります。20~240名程度でお受けしていますが、その他の人数はご相談いただいております。

Q 業務に携わって嬉しかったことはありますか？

9月20日に無事、オープンを迎えられたことです。スタッフのユニフォームも担当したのですが、自分のやったことが形になると嬉しいです。

Q 来館者に見てほしいところは？

1日4回実施している語り部の講話です。語り部は実際に避難生活を経験している方たちなので、ご自身の体験をお話しています。

地域とつながる活動を 八巻 ジャネット ピレーさん (フィリピン・マニラ出身・福島市在住)

2019年12月末現在、福島県内に住んでいるフィリピン国籍の方は2,719人と中国、ベトナムに次いで県内3位となっています(『福島県の国際化の現状』より/福島県国際課発行)。「HAWAK KAMAY FUKUSHIMA (ハワクカマイ福島)」は、フィリピンに縁のある方が中心となって活動しているコミュニティです。今年から会長に就任したジャネットさんにお話を伺いました。

(インタビュー日:2020年10月27日)



- 「ハワクカマイ福島」について教えてください。

東日本大震災を機にフィリピン人のネットワークを広げるため、2011年4月に設立しました。私は震災後に来日し2年前にハワクカマイ福島に入会したのですが、設立当初は福島市内の避難所でフィリピン風焼きそばのビーフンの炊き出しを行い、仮設住宅で炊き出しやフィリピンの歌や踊りを披露しました。タガログ語の広報紙も作成しました。

- 2016年に来県してフィリピンとの違いを感じたことはありますか？

医療保険制度が充実していることですね。救急車のサイレンが聞こえると優先して通そうと自動車を寄せる行動も、初めて見たときは驚きました。私が生活していたマニラ市は車が大渋滞するのですが、緊急の時に日本のような行動ができると思う。フィリピン人は家族と過ごす時間をとても大切にしますし、家族を守るという気持ちが強いですね。

- 現在「ハワクカマイ福島」はどのような活動をされているのですか？

タガログ語の“HAWAK KAMAY”は日本語で“手をつなごう”という意味。地域とつながる交流ができればと考えています。昨年、老人ホームでクリスマスパーティを開催したのですが、一緒に歌を歌ったりとおじいさんやおばあさんに喜んでもらい、私たちもとても嬉しかったです。今は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されることが多いですが、できることをできる範囲でやっていきたいと思っています。

Scenes of Fukushima

外国人のための専門相談会(主催:福島県国際交流協会)

福島県に住んでいる外国人やその家族の方の相談に、専門の弁護士や行政書士が電話でお答えします。相談は無料(電話代は負担)、秘密は厳守します。相談を希望する方は事前の申込が必要です。詳しくは福島県国際交流協会へお問い合わせください。

<電話法律相談会>

受付内容:生活についての法律相談

申込期間:1月5日~1月26日

<行政書士による電話相談会>

受付内容:出入国、在留、国籍などの手続きの相談

申込期間:2月2日~2月24日

発行者

(公財)福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階

☎ 024-524-1315 📠 024-521-8308

✉ info@worldvillage.org

🌐 http://www.worldvillage.org

Facebook https://www.facebook.com/fiainfo

Twitter https://twitter.com/fia_info

多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動など10言語で発信しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

- 外国人住民のための相談窓口 - 11か国語で対応しています

日本語・英語・中国語・韓国語・タガログ語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語、ネパール語・インドネシア語、スペイン語

毎週火曜日~土曜日 9:00~17:15

☎024-524-1316 ✉ask@worldvillage.org (相談専用)

情報をお寄せください

みなさまからのご意見やご感想をお待ちしております。取り上げてもらいたい情報、Voices from Fukushimaにご登場いただける県在住外国人の情報もお気軽にお寄せください。

